

事業番号 2021 - 復興 - 20 - 0121

令和3年度行政事業レビューシート (復興庁)

事業名	福島イノベーション・コースト構想 (ロボットテストフィールド・研究開発拠点整備事業)			担当部局	復興庁	作成責任者			
事業開始年度	平成28年度	事業終了 (予定) 年度	令和2年度	担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)	参事官	伊地知 英己		
会計区分	東日本大震災復興特別会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	○福島復興再生特別措置法第81条～第89条			関係する 計画、通知等	○福島イノベーション・コースト構想(平成26年6月) ○福島イノベーション・コースト構想に係るロボットテストフィールド及び国際産学官共同利用施設(ロボット)の整備及び運営に関する協定(平成28年1月) ○「原子力災害からの福島復興の加速のための基本指針について」(平成28年12月) ○「福島復興再生特別措置法の一部を改正する法律」(平成29年5月) ○「経済財政運営と改革の基本方針2017」(平成29年6月) ○「未来投資戦略2017」(平成29年6月) ○「福島復興再生基本方針」(平成29年6月) ○「重点推進計画～世界に誇れる福島の復興・創生の実現～」(平成30年4月)				
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	福島浜通り地域において、福島県の重点産業であるロボット分野の地元中小企業や県外先進企業による産業集積を構築し、被災地の自立と地方創生のモデルを形成する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	今後の利用拡大が見込まれる無人航空機(ドローン)、陸上・災害ロボット、水上・水中ロボットの開発を加速する上で、真に求められる機能(実証試験・性能評価)と規模を兼ね備えた世界に類を見ないテストフィールドを約50ha規模の敷地に整備する費用を補助する。 [補助率] 経済産業省→福島県 定額(10/10)								
実施方法	補助								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	340	1,758	354	-	-		
		翌年度へ繰越し	▲ 1,758	▲ 354	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	2,065	4,137	354	0	0		
	執行額	2,065	3,901	62	-	-			
	執行率 (%)	100%	94%	18%	-	-			
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	59%	143%	#DIV/0!	-	-				
令和3・4年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和3年度当初予算	令和4年度要求	主な増減理由					
	地域経済産業活性化対策費補助金	0	0	-					
	計	-	-	-					
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 2 年度
	令和2年度までに年間1,300組の利用者数を目指す。	ロボットテストフィールドの年間利用者数(のべ組数)	成果実績	組	157	601	1,458	-	1,458
			目標値	組	160	600	1,300	-	1,300
			達成度	%	98	100	112	-	112
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	民間のドローン技術研修会等の利用者実績等から推計								

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度 活動見込	4年度 活動見込	
	活動実績	当初見込み							
テストフィールドの設備の整備数	活動実績	-	-	2	12	1	-	-	
	当初見込み	-	-	3	11	1	-	-	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込		
	整備費(x) / 施設の整備数(y)	単位当たり コスト					百万円	1,032	325
		計算式	百万円/数	2,065/2	3,901/12	62/1	-		
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	IV. 中小・地域							
	施策	5. 福島・震災復興							
	測定指標	定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)				
		東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興と新たな時代を担う産業の創出による「新生ふくしま」を実現。	東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興と新たな時代を担う産業の創出による「新生ふくしま」を実現。	-	-				
					施策の進捗状況(実績)				
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	福島浜通り地域において、福島県の重点産業であるロボット分野の地元中小企業や県外先進企業による産業集積を構築し、被災地の自立と地方創生のモデルを形成することで、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興と新たな時代を担う産業の創出による「新生ふくしま」の実現に貢献。								
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	2年度	3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	-
(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	2年度	3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
	目標値	-	-	-	-	-	-	-	
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係									
2020									

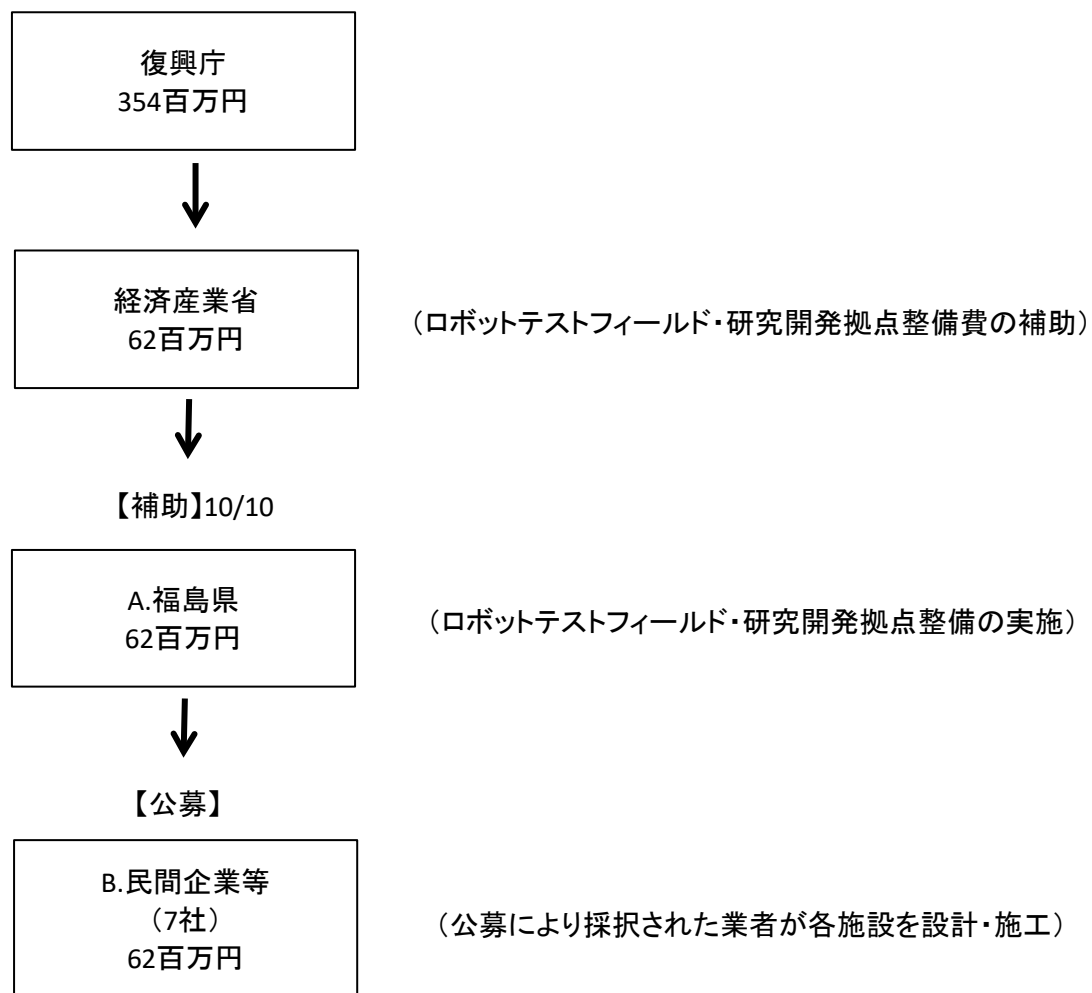
事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	平成26年12月に発足した、高木経済産業副大臣を座長とし、福島県知事、地元自治体の首長、有識者で構成される「イノベーション・コースト構想推進会議」において、平成27年6月、構想の実現に向けた議論の整理がなされ、ロボットテストフィールドと国際産学官共同利用施設について事業化していくことが決定した。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	福島浜通り地域の復興のために、フィールドロボットの開発拠点を作って内外の研究者を集めることは、国主導で実施することが必要。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	科学技術イノベーション総合戦略2015(平成27年6月)において、イノベーション・コースト構想の実施が掲げられており、本事業を速やかに実施する必要がある。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	当事業は福島県が整備することが決まっており、設計及び施工にあたり、広く民間企業等を対象として公募を行うため、競争性は確保される。なお、一者応札、一社応募となったものについては、福島県財務規則に基づき、適切に選定されている。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	経済産業省と福島県が平成28年1月に締結した整備・運営に関する協定に基づく財政支援的のため妥当。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	有識者・関係者からなる委員会により、求められる各施設・設備を検討しており妥当
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	外部有識者で構成される委員会での評価を踏まえつつ、事業に必要な経費のみを支出している。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	有識者・関係者からなる委員会での検討結果を踏まえ、事業目的に沿った施設の整備に限定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	入札差額による執行額の減額のため。
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	有識者・関係者からなる委員会により、求められる各施設・設備の仕様等の検討とあわせて整備に係るコスト削減や効率化を図っている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	全面開所後、利用者は増加しており、成果目標に見合ったものとなっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	整備手法等の工夫も実施しており、その他の手段・方法等は想定されない。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	全ての施設の整備が完了し、全面開所した。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	大学や研究機関、企業等多くの実証等で活用されている。
点検・改善結果	点検結果	本事業は、「福島イノベーション・コースト構想」の主要プロジェクトの一つに位置づけられており、物流、インフラ点検、災害対応で活躍するロボット・ドローンの研究開発に必要な実証試験と性能評価が一力所のできる、世界に類を見ない拠点であることから、国が主導して行わなければ、実現困難である。このため、予算という手段を用い、国費(定額)により整備するもの。整備に係るコスト削減や効率化を図りながら、供用開始できる施設から順次開所し、2020年度の全面開所に向けて整備を進めた。	
	改善の方向性	本事業は福島ロボットテストフィールドが整備されたことにより、令和2年度で終了。本事業の目標達成に向けて、点検項目の評価を維持していく。	
外部有識者の所見			
対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
終了予定	令和2年度で終了した事業である。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
予定通り終了	令和2年度で終了した事業である。		
備考			
-			

関連する過去のレビューシートの事業番号				
平成28年度	新28-0008	-	-	-
平成29年度	0136	-	-	-
平成30年度	0127	-	-	-
令和元年度	復興庁 - 0127			
令和2年度	復興庁 - 0123			

※令和2年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.福島県			B.(株)東栄科学産業		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
整備費	ロボットテストフィールド整備事業に係る施設等整備等	62	整備費	緩衝ネット設備整備	41
計		62	計		41

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	福島県	7000020070009	ロボットテストフィールド整備	62	国庫債務負担行為等	-	-	-

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)東栄科学産業	3370001002030	緩衝ネット設備整備	41	一般競争契約 (最低価格)	1	96%	-
2	ミドリ環境建設(株)	2380001015635	福島ロボットテストフィールド基盤整備工事	10	一般競争契約 (総合評価)	2	92.9%	-
3	(株)FSK	4380001013711	福島ロボットテストフィールド浪江滑走路ネットワーク構築業務委託	7	一般競争契約 (最低価格)	1	94.6%	-
4	(株)大一事務機	7380001015671	高画素カメラ購入	1	一般競争契約 (最低価格)	3	76.6%	-
5	公益社団法人福島県公共嘱託登記家屋調査士協会	6380005000076	建物表題登記業務委託 (福島ロボットテストフィールド風洞棟等)	0	随意契約 (少額)	1	100%	-
6	東洋安全防災(株)	5380001013454	ゴムボート購入	0	随意契約 (少額)	8	68%	-
7	(一社)福島県公共嘱託登記司法書士協会	5380005010407	建物所有権保存登記業務委託 (福島ロボットテストフィールド各建物)	0	随意契約 (少額)	1	100%	-

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1	A	福島県	7000020070009	ロボットテストフィールド整備 契約方式:本補助金交付要綱に基づく福島県への補助金交付	62	その他	-	-	-